

はじめに

南関町では、庁舎等建設に向けた取り組みとして平成25年度より町職員による事前検討委員会や町職員、住民代表による建設検討委員会、その後建設委員会を組織し庁舎移転先を旧南関高校に決定し、平成29年3月「南関町庁舎等整備基本構想」を策定し、「基本理念」を下記5項目としました。

- ①安心・安全な防災拠点となる庁舎
- ②利用しやすく親しみやすい快適な庁舎
- ③まちづくりの拠点・まちのシンボルとなる庁舎
- ④機能的で柔軟性のある庁舎
- ⑤環境に配慮した庁舎

本基本計画は、今後策定される基本設計、実施設計、建設工事の指針となるものであり、南関町が目指す庁舎像を明らかにするものです。



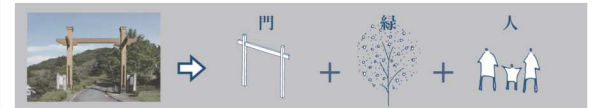
○新庁舎建設地概要
 建物用途：庁舎（事務所）
 住所：熊本県玉名郡南関町関64（旧南関高校跡）
 敷地面積：約35,000㎡
 区域区分：都市計画区域外
 用途地域：指定なし
 防火地域：指定なし
 その他：なし



まちづくりのシンボルとして
 南関町コンパクトシティ構想（案）は人口減少による財政力の低下、少子高齢化等による地域力の低下などの問題に対応するため、コンパクトなまちづくりを行うことで経費を抑え、最大限の効果を生み出す創意工夫を行います。



南関町の歴史や文化、地域産材のイメージ



庁舎コンセプトモデル

緑あふれる南関町に、力強い関所の門や竹、小代焼き等の町の個性を表すものを庁舎のデザインに用いることにより、人々に憩いの場を創りだします。

庁舎の現状と建設の課題



施設名	建設年	構造	階数	延床面積 (㎡)
南関町役場	昭和41年	RC	2	2,585.60
南関町公民館	昭和52年	RC	2	1,442.00
南関町保健センター	昭和63年	RC	1	504.80

※RC：鉄筋コンクリート構造

■役場庁舎等の課題

- ・耐震性能の不足
- ・一般駐車台数の不足
- ・待合や執務スペースの狭小化
- ・施設・設備の老朽化
- ・窓口機能の分散化

新庁舎等の規模

■新庁舎の規模（職員数、議員数、駐車台数）

- ・今後の基本・実施設計を進める指標となる職員数や議員数、駐車台数は次の通りです。
 職員数：145人 議員数：12人

種別	来庁者用	職員用	公用車	合計
駐車台数	100台	145台	38台	283台

- ・庁舎の床面積は基本構想で算定した4,567.5㎡とします。ただし、旧南関高校を庁舎機能として活用を図り、事業費等を最小限に抑えます。

新庁舎建設等のスケジュール

	平成29年度	平成30年度	平成31年度
敷地 譲渡協議	■		
基本計画・基本設計	■		
実施設計		■	
建設工事			■

事業の概略スケジュール

基本理念1 安全・安心な防災拠点となる庁舎

■災害等に耐えうる庁舎の整備

- ・増築棟（新棟）は、耐震安全性の目標を「I類」と設定し、十分な耐震性能を確保します。既存南関高校管理棟・校舎棟は、過去の耐震診断において、所要の耐震性能が確保されているとの結果がでており、既存の構造体は壊さない前提で庁舎としての活用を図ります。

部位	分類	耐震安全性の目標
構造体	I類	大地震後、構造体の補修をすることなく建築物を使用できることを目標とし、人命の安全確保に加えて十分な機能確保が図られるものとする。

■災害対策機能の確保

- ・災害対策本部室（庁議室）を設置し、災害時の迅速かつ確実な指揮命令が可能な計画とします。
- ・敷地には防災公園や245台＋公用車38台収容可能な駐車場を設け、緊急時のヘリポート、被災者の受入、車中泊対応、仮設テント、備蓄、仮設住宅等のスペースに転用可能な配置とします。
- ・住民の緊急避難のための水・食料・毛布等を保管する備蓄スペースを設けます。

■設備における災害時のバックアップシステム

- ・災害時、確実に業務継続が可能な庁舎とするために、72時間対応の非常用発電設備や受水槽、マンホールトイレの設置などライフラインの多重化と自然エネルギーを活用した災害バックアップシステムを構築します。

■セキュリティ対策の強化

- ・来庁者と職員専用の範囲を明確に区分し、防犯性に配慮した計画とし、情報管理を徹底します。

基本理念2 人にやさしく利用しやすい親しみのある庁舎

■窓口のワンストップサービス化

- ・新庁舎の窓口は、ワンストップサービス化を図ることで移動による負担を軽減します。また、社会福祉協議会の移転についても基本設計時に検討・協議を行います。
- ・町公民館（ホール除く）と保健センターを集約することにより、利便性を向上させます。
- ・町民のプライバシーに配慮したカウンターや相談室を設置します。

■誰もが利用しやすい庁舎、ユニバーサルデザインの導入

- ・ユニバーサルデザインを徹底し、誰もが気軽に立ち寄り、利用しやすい庁舎を計画します。授乳室やオストメイト対応多機能トイレの設置、キッズスペース等を整備します。
- ・来庁者に優しい庁舎とするために、歩道や車いす使用者用駐車場の整備、雨に濡れない玄関庇の設置や公共交通を乗り入れるための動線を確保します。
- ・「南関町公共施設・公共工事等木材利用促進基本方針」に基づき、木造の庁舎を検討します。また、地域の木材や竹を活用した計画とします。

基本理念3 まちづくりの拠点・まちのシンボルとなる庁舎

■南関町コンパクトシティ構想（案）に基づき、まちづくりのシンボルとなる庁舎

- ・南関町コンパクトシティ構想（案）に基づき、中心市街地再生の新たな動線を造り、生涯学習・憩いの場や健康づくりの場を整備、再生可能エネルギーや新建材の利用、乗合タクシーの乗り入れ等、これからのまちづくりの核となる計画とします。
- ・敷地には、うから館から延びる田町中央線と関町中央線が交差する位置から取付道路を整備するとともに、防災広場を設け、イベントや災害時に庁舎と連動した活用ができる計画とします。

■町民に開かれた議場の整備

- ・町民に身近な議会として、傍聴しやすい議場を整備します。傍聴者と議会用の動線の確保や機能的な諸室配置を計画します。

■町民が誇れる外観の整備

- ・旧南関高校との調和を図りつつ、町の歴史や文化を取り込み、南関らしさを感じる庁舎を目指します。

■既存施設を活用した生涯学習機能の付加

- ・旧南関高校の家庭科・工芸実習棟、礼法室を活用し、生涯学習機能を含めた庁舎を整備します。

基本理念4 機能的で柔軟性のある庁舎

■機能的かつ効率的な庁舎とコスト縮減

- ・将来的な事務機構改革に対応できる柔軟性のある執務空間を整備し、行政サービスの向上を図ります。
- ・建設費や維持管理費を極力抑えた計画とします。地元産材を積極的に活用するとともに、汎用性のある資材の採用や修繕・交換時の対応がしやすい材料を選定します。

基本理念5 環境に配慮した庁舎

■自然エネルギーの活用、環境負荷の低減

- ・太陽光発電や雨水利用、井戸水利用など自然エネルギーを積極的に活用することで、維持費の削減を図ります。また、バイオマス等の再生可能エネルギーについても導入を検討します。
- ・省エネルギーに配慮した庁舎として外壁・屋根・ガラスなどの断熱性能を向上させつつ、設備では、LED照明、節水型機器、高効率型空調機器等の採用を行い、環境負荷の低減を図ります。

